

大阪維新の会のスローガンと万博・IR カジノ

大阪日日 10 月 31 日「金井啓子の伴走で伴奏」は大阪万博の建設費膨張を取り上げる。「まかり間違えば大阪万博も東京オリンピックの二の舞になりかねない」と、警鐘を鳴らす。何とも言い難い違和感の正体はいったい何なのかと考えていると、ふと思い当たることがあった。大阪維新の会がこれまで主張してきたスローガンと正反対なのだ。「税金の無駄使いをなくす」といった維新の掛け声とは正反対である。

いうまでもなく大阪府の吉村洋文知事と大阪市の松井一郎市長は維新の会トップと創業者だ。府知事と市長の行政運営は維新の政策に沿ったものと解釈しても間違いではないだろう。

だとすれば大阪万博の誘致成功は維新の政策のたまものであるが、建設費等のコストアップをこのまま見逃がして受け入れてしまうのだろうか。税金の無駄遣いに反対していた政党が、結果として無駄使いをやってしまった。これが私が感じた違和感の正体だった。

11 年春の統一地方選で大躍進した維新も来年春で丸 12 年を迎える。大阪府市で圧倒的な強さを誇る同党も、もはや既成政党。「税金の無駄使いをなくす」と叫んでいた同党はどうなったのか。違和感は今後も続くと予想する。

金井啓子さんの指摘に同感することが多い。5 年ほど前に名古屋から大阪に転居して、いちばん感じたのは維新政治による大阪の変ぼうである。半世紀ほど前の大学院浪人と院生時代の大阪と様変わりした姿だった。とりわけ大阪城と天王寺の公園、御堂筋などの画一的で商業主義的な「都市再生」なるものには失望した。

金井さんの鋭いコラムを毎回楽しみにしているので、今後も問題提起を期待したい。私なりに大阪維新の会のスローガン倒れについて、すこし付け加えておきたい。

金井さんの万博に対する違和感は、愛知万博をウォッチしてきた者として、大阪への誘致が決まった瞬間から感じてきた。大阪・関西万博とともに、夢洲に誘致を強行する IR カジノは、超長期にわたる巨大事業であり、大阪市財政をはじめとして、大阪全体に甚大な影響を与える。長年にわたり地方行財政を調査研究してきた一人、大阪市民として黙ってはおれないと、夢洲 IR 差し止め訴訟の原告になった。10 月 18 日の第 1 回口頭弁論の「意見陳述」で、土壌が汚染され、高層建築物など想定していない、きわめて軟弱地盤の大阪湾の埋立地・夢洲に IR カジノ施設を計画し、大阪市が底なしの財政負担することの違法性を問う訴訟だと述べた。

大阪維新の会は「税金の無駄遣いをなくす」などと叫んできたが、夢洲での底なしの財政負担をどう考えるのか。スローガンを撤回するか、IR カジノ誘致を撤回するのか、どちらかにしてもらいたい。これ以上、維新のスローガンにだまされてはならない。

(2022 年 11 月 3 日)